

普段から行う防災

みやぎけん せんだい しりつ だいにいちちゅうがっこう

宮城県仙台市立第一中学校

すがもと

二年

菅本

匠馬 たくま

令和三年七月三日。テレビの画面には速報
 ニュースとして衝撃的なテロップが表示され
 た。熱海市で大規模な土石流発生。約二十
 人の安否不明。私に限らず多くの人がこの文
 字を見て驚愕しただろう。今回熱海市で発生
 してしまった土砂災害は土石流だ。私達は、
 その頃地理の授業で日本の様々な自然災害に
 ついて学んできたのだ。つい最近学んだ土石
 流について被害の恐ろしさが頭に鮮烈に残っ
 ていたことにより、それが現実で起こったこ
 とに驚きを隠せなかった。更に速報ニュース
 が入って数分後、今度はその土石流の映像が
 映し出された。勢いよく家を流していきたり、
 電柱などをなぎ倒していくようすは見ていら
 れないほど残酷なものであった。私の住む宮
 城県仙台市は梅雨や台風の影響による大きな
 被害に遭うことは九州地方などの西日本より

も少ないかもしれない。しかし過去に土砂災
 害発生事例の少ない身近な地域や場所でも
 大きな被害が出てしまったことがあり、防
 災意識が大切だということを改めて私は痛
 感した。今回の土石流の原因について、デ
 ィアは、違法な盛り土が原因と、という見
 解を報道している。確かに報告を怠り盛り
 土の工事が適切ではなかったことは反省す
 べき点の一つである。ところが私はそれ以
 上に強く感じたことは、避難情報が甘く
 見てもらわれていたことだ。避難情報が
 遅れたことがより被害が拡大してしま
 った最大の原因だと考える。土石流が発
 生したときはすべレベル三に値する高齢
 者等避難を発令し、土砂災害警戒情報も
 出されていた。そのうえ、まだ明るい時
 間でもあり避難が可能な時刻でもあつた
 にも関わらず、命を落としてしまった。た
 ったこととはとても残念に思う。ちよ
 うど同じ年に災害時の避難情報の発表方
 法も見直されて改めて一人一人の防災
 意識が変わったことがあった。

ときに土石流が発生し決して国や県に責任を押し付けることはせずに、自分自身や家族、住民どうしなど、身近な人と命を守り合う自助や共助をこれから更に大切にして被害をな
るべく最小源におさええる減災を行うことが今
後の課題となるだろう。

今回の土石流に限らず、全ての土砂災害に
共通していえることは、日頃からの準備が大
切、ということだ。近年、様々な災害への対
策としてよく耳にするのがハザードマップだ。

予想される被害の程度や避難経路が示されて
いることと家族と話し合うことが、自己助
に繋がるのだ。私の住む宮城県は十年前の東
日本大震災を経験して地震に対する対策や知
識は備わっている。しかし洪水に対する被害
はあまり聞いたことがなく土砂災害への対策
が薄れていたことに気付いた。したがって私
は仙台市内のあらゆる自然災害のハザードマ
ップを見ることにした。自宅付近には危険箇
所がなくとも自分の通う学校や、その通学路

には危険箇所が潜んでいた。予期せぬときに
 起こる可能性のある土砂災害だからこそ事前
 の準備で命を守る行動をとっていきたい。
 今まさたくさん発生してきた土砂災害を忘
 れることなく、それを後世に伝えていくこと
 がこれから何十年も先にも必要になっ
 ていくことだろう。たとえ被災した人が
 いてもその経験や教訓を伝えなければ
 また同じことの繰り返しとなり、救
 える命が救えられなくなる。か
 もしれない。現在地球は環境の変化により
 進化している。そこそ私達も進化して成長し
 ていくことが必要ではないか。過去に起きた
 災害を今から防ぐことはできないが、未
 来に起こるであろう災害を防ぐことは私
 は可能だと思ふ。地すべりや斜面崩壊を
 防ぐために施設を創設することは莫大
 な時間や資金が必要。私達が直接関
 わることには厳しいが災害に
 対しての知識を付けられるだけ
 もそれは一つ防災や減災の取
 り組みとなる。今回の熱海市の土石
 流で七くなられた方の

御冥福を祈るとともに、一人一人が正しい知識を持ち、普段からの対策を行えば一人でも多くの命が助かり、幸せな人生を送ることの
せざる人が増えることを願う。